



大会概要

2024年 SUPER GTシリーズ 第8戦

大会名称

2024 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300KM RACE

開催日時

11月2日 土曜 (予選) 11月3日 日曜 (決勝)

開催サーキット

モビリティリゾートもてぎ ロードコース (1周 : 4.801km)

同時開催レース

FIA-F4選手権シリーズ第11戦&第13戦・第14戦

主催

ホンダモビリティランド株式会社/エムオースポーツクラブ (M.O.S.C) /
株式会社GTアソシエーション(GTA)

公認

国際自動車連盟 (FIA)
一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション (GTA)

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/茂木町



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O

■ 代表

古場 博之

■ 監督

小倉 啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア
チーフメカニック

Mattia Oselladore
片岡 恵人

■ スポンサー

アスカ株式会社

朝日金属株式会社

C I S株式会社

株式会社安藤・間

ザーレン・コーポレーション株式会社

城東電機株式会社

T O N E株式会社

ウエスタンデジタル合同会社

D O B O Tジャパン株式会社

株式会社リブレ

ニチアス株式会社

見田工作株式会社

エバー株式会社

愛知電線株式会社

コスモ開発株式会社

笹原金型株式会社

岡田金属株式会社

有限会社大和工業

株式会社ジョイフル設備

有限会社ます徳

エクセルフィルム株式会社

アクセル有限会社

M I D T O W N B B Q

OIRC

カトー機械株式会社

ARMS株式会社

青山エレベーター株式会社

RAIDEN

株式会社デジテックエイチピー

株式会社ジョイフル設備

株式会社マイティミズタニ

株式会社アクトライズ

医療法人社団ヒロデンタルクリニック

高新自動車学校

株式会社アート買取協会

◆ 予 選

天候 雨

コース状況 ウェット

気温 17℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 19℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時00分 (GT300クラスQ1開始予定時刻)



VELOREX (Team LeMans)は、昨年に引き続き、SUPER GT GT300クラスに参戦する。4年目となる今シーズンは、マシンをAudi R8 LMSからFERRARI 296 GT3に変更し、マシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」とした。一方、ドライバーは昨年同様、第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムンタンを起用。チーム体制も継続し、2023シーズンを上回る活躍を目指す。タイヤは、これまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTの予選方式は、Q1、Q2のタイム合算方式を基本とし、GT300クラスの場合、全車参加で20分間のQ1を行ない、上位14台がQ2 Upper 14th、15位以下がQ2 Lower 15thに分かれてそれぞれ10分間のQ2に挑む。予選順位はQ1、Q2の合算タイムで決まり、Upper 14thでQ2を走行したグループの中からポールポジションが決まる。Lower 15thでQ2を走行したチームが合算タイムで最速であっても15番手スタートとなる。雨天の場合、スターティンググリッドはQ2を走行したドライバーのタイムで決められる。なおルール変更によりQ1、Q2でそれぞれ新品タイヤが使用可能となり、レースウィークを通じての使用可能タイヤセット数の制限があるため、昨シーズンにも増してタイヤのマネージメントが重要になる。レインタイヤのセット数制限は無い。(※今大会は300KMレースのため、ドライタイヤは4セットとなっている)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI 出走グリッド：7位**(公式予選Q1タイム2分00秒592：ロベルト選手／公式予選Q2タイム片山選手：1分58秒367)**

予選日は朝から冷たい雨が降り続き、気温17℃、路面温度19℃というコンディション。9時00分からSUPER GT第8戦の公式練習がスタートした。

公式練習開始早々にストップした車両回収の為に赤旗が出され、セッション終了までに実に6回の赤旗が出される荒れた公式練習となった。

今回は事前のエントラントミーティングによって、公式予選が悪天候でキャンセルされた場合でも、公式練習でのタイムを予選グリッドとはしないということで合意を得ていた。前回のオートポリス大会で雨の中、ポールポジションを獲得した6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは、ロベルト選手がステアリングを握ってコースインし、赤旗のタイミングが悪くなかなかタイムアタックができなかったが、1分59秒107をマークし、GT300クラス2番手タイムで公式練習を終えた。エースドライバーの片山選手は赤旗の出されたタイミングの悪さによって、一度もコースインすることなくセッションを終えている。

雨が降り続く中、午後2時からスタートした予選Q1では、6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIはロベルト選手が2度の赤旗中断によってベストアタックを無駄にしたものの、総合5番手タイムとなる2分00秒592をマークし、UPPER14に進出を決めた。

午後3時21分から開始された予選Q2では、片山選手がぶっつけ本番、まさに一発勝負となるアタックで、4周目に見事1分58秒367をマーク。

明日の決勝を7番手グリッドからスタートすることとなった。

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 22℃ (スタート時)

路面温度 31℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時00分
(正式スタート時刻 13時07分08秒)予定走行時間 300km
(正式フィニッシュ時刻 15時00分58秒)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山&ロベルト選手)

決勝結果：9位 (所要時間：58周消化／ベストラップ：1分51秒193=片山選手)

例年であればタイトル決定戦となるモビリティリゾートもてぎ大会は、第5戦鈴鹿大会が台風の影響で延期となったために、サクセスウェイトを搭載して戦う今シーズン最後のレースとなった。

6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI には20kgのサクセスハンディが搭載されたが、予選に関しては特に問題となることは無かった。今回のレースに向けて選定したタイヤはウォームアップ走行の時点でパフォーマンスが高くないことが判明。厳しいレースが予想されていた。

決勝スタートは14時07分。交通機動隊を先導としたパレードラップを終えて大きな波乱もなく300kmのレースが無事スタートした。7番手からスタートした片山選手は、スタート直後からアグレッシブな戦いを展開し、1周目の90度コーナーで2台を一気にオーバーテイクしようとアウト側から勝負に出たことが裏目に出て、軽い接触で右側のバックミラーを弾き飛ばしながらの攻防だったが止まり切れず僅かにオーバーラン。逆にポジションをひとつ落としてしまう。その後も激しいバトルが続いたが、2度目のFCYが出された後のリスタートで痛恨のミス。再スタートのタイミングで約5秒を失いポジションを10番手へとドロップさせてしまう。しかし気を取り直して再びポジションをアップ、ピットオープンのタイミングで早めにピットインし、ロベルト選手に交代。

17番手までドロップしたものの1台、また1台とポジションをアップしながら、さらに上位を目指すVELOREXは、路面温度とマッチングしないタイヤに苦しみながらも9番手まで浮上。後方からの激しいプレッシャーを最後まで退け、無事9位完走のチェッカーを受けた。

片山 義章 選手のコメント

今回は公式練習で6度の赤旗が出されてしまい、自分の走るタイミングを失ってしまいました。FCYのシステムチェックの時間を練習に当てようと思っていたのですが、それも悪天候でキャンセルとなってしまい、予選Q2までに1周もできていない状態でいきなりウェット路面でアタックをするという困難な状況に置かれました。ただ、ロベルト選手のタイムやデータ、オンボードカメラの映像を確認した段階で、マシンに対する不安な点は一切無かったですし、緊張はしましたが、自信を持って予選Q2に挑めました。予選Q1でロベルト選手がUPPER 14への進出を決めてくれましたし、自分もミスなく7番手グリッドを確保することができました。

決勝レースでは、スタート直後から攻めの走りでなんとかポジションを上げて優勝圏内でロベルト選手にバトンを渡すつもりで思いっきり走りましたが、路面温度や気温にタイヤがマッチしていなかったのか、むしろ厳しい戦いを強いられることになってしまいました。2度目のFCYのリスタートで無線のトラブルが原因となってポジションをふたつ落としてしまったのは悔しいですが、今後は2度とそのような事が起こらないように、反省して経験として生かすつもりです。ロベルト選手も頑張ってくれましたが、今日のマシンでは優勝をイメージすることができませんでした。最終戦の鈴鹿までに、細かなデータを見直して勝てるマシンに仕上げ、優勝でシーズンを終わりたいと思っています。



ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

前回同様、ウェット路面でのマシンのバランスは最高だったので、公式練習から自信を持って走れました。公式練習も予選も、遅いマシンに引っかかっていなければ最速タイムをマークできたとは思いますが、自分の仕事は片山選手にUPPER 14グループで走ってもらうことでしたから、満足はしています。

決勝レースに関しては、何もコメントしたくないのが本音です。マシンのバランスも全然良くなかったですし、タイヤも路面に合っていたとは思えません。悔しいレースでしたが、戦いに関してはフェアに精一杯頑張ったので、ある意味、納得がいくレースだったと思います。次の鈴鹿は得意なサーキットのひとつですし、ウェイトハンディも無くなるので、公式練習から予選、決勝を含めて本当に全力を出し切るつもりで頑張ります。



監督コメント

浮き沈みの激しいレースウィークとなってしまいました。公式練習から予選にかけては本当に不安定な天候の中、ギリギリまで予選ができるの心配でしたが、結果的にはしっかりと予選が行なわれたのは、ファンの方々にとっても良かったのではないかと思います。チームとしては、雨のセットアップには自信がありましたので、公式練習での2番手は、むしろ遅いマシンに引っかからなければトップタイムは見えていました。予選Q1もロベルト選手が頑張ってくれたのですが、逆に片山選手にとっては、朝の公式練習で1周も走れず、ぶっつけ本番で予選Q2に挑んでもらうこととなってしまいました。しかしそこはプロフェッショナルドライバーとして、良い仕事をしてくれました。

決勝に関しては、もう言葉が無いというのが、正直な気持ちです。ドライバーも頑張ってくれていましたし、チームもミス無く戦えたとは思いますが、根本的にスピードがなかった。勝てるペースではなかったということを重視して、次の鈴鹿大会までに問題点を整理し隠された不調の原因を発見しなければなりません。FCYのミスは、ヒューマンエラーのひとつだと思いますので、今後に向けてしっかりと手順を押さえて理解度を高めたいと思っています。とにかく、今日のレースは我々にとって満足できる内容ではなかったです。次の鈴鹿大会でリベンジすべく、明日から精一杯の準備を整え、最終戦に向かいたいです。



WestCove

BLUEGRASS

UNI-ROBO

DOBOT

zahren

TONE

OIRC



KOHSHIN DRIVING SCHOOL
SAFE DRIVE
高新自動車学校

EVER CORPORATION



ニチアス

METAL RECOVERY
OKADA KINZOKU

AOYAMA
ELEVATOR

カトー機械株式会社

Digi-Tec
INTECNO

MAITY
MAITY MOLTAN ENGINEERING SYSTEM

MIDTOWN BBQ
www.midtown-bbq.com

Western Digital.

The
CELLAR
G O T E M B A

ESTATE SALE
SUPREMACY

JOTO DIRECT

見田工作

ASAHI 朝日金属株式会社

RiBLE

HA & A
Human & ARMS

SASAHARA

DALWA

XPEL
J A P A N

ActRizz

英摩法人会
ヒロ デンタル クリニック

安藤ハザマ
HAZAMA ANDO CORPORATION

AEW 愛知電線

UT Co.,Ltd.

アート
買取協会

Sponsor introduction

VELOREX
Fueled by Ambition